

(12) JAPANESE UTILITY MODEL PUBLICATION (U)

(11) PUBLICATION NO. H07-39607

(43) Publication Date : July 18, 1995

(21) Application Serial No. H05-75923

5 (22) Filing Date : December 30, 1993

(71) Applicant : TACHI-S CO., LTD.

(72) Inventor : AKIYAMA (秋山), SAKAMOTO (阪本), SAITO (齊藤)

10 (54) Title of the Invention : DEVICE FOR ADJUSTING INCLINED  
POSITION OF HEADREST

PURPOSE :

To provide a device for adjusting an inclined position of a headrest adequately.

15

CONSTITUTION :

A seat comprises a headrest H and a seatback SB. A bracket 1 is welded on an upper portion 40 of a back frame 4 of the seatback SB in a standing manner. A headrest frame 2 of the headrest H is  
20 rotatably attached to the bracket 1 via blade springs 3, 3. The bracket 1 has concave portions 10A, 10A, 10A, a hole 11 and flanges 12, 13. The headrest frame 2 has a hole 20A and slits 20B, 20C, 20D at an end 20 thereof. The blade spring 3 has engaging claws 3B, 3C, 3D, a convex portion 30 and a hole 31. The blade spring is engaged  
25 to the headrest frame 2 by inserting the engaging claws 3B, 3C, 3D into the slits 20B, 20C, 20D, respectively. An inclined position of the headrest H is held by engaging the convex portion 30 to one of the concave portions 10A, 10A, 10A. The headrest H rotatably fixed to the seatback SB by inserting a rivet 5 into a hole 11, a hole 20A and a

hole 31. The flanges 12, 13 are formed on both ends of the bracket 1 and control a rotational range of the headrest H. When the headrest H is pressed forward or backward against an engagement of the convex portion 30 and the concave portion 10A, the headrest H  
5 rotates around the rivet 5 and then the convex portion 30 moves into and is engaged to the adjacent concave portion 10A.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-39607

(43) 公開日 平成7年(1995)7月18日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 7 C 7/38

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号

実願平5-75923

(22) 出願日

平成5年(1993)12月30日

(71) 出願人

000133098

株式会社タチエス

東京都昭島市松原町3丁目2番12号

(72) 考案者

秋山 政巳

東京都昭島市松原町3丁目2番12号 株式会社タチエス内

(72) 考案者

阪本 孝雄

東京都昭島市松原町3丁目2番12号 株式会社タチエス内

(72) 考案者

斉藤 哲夫

東京都昭島市松原町3丁目2番12号 株式会社タチエス内

(74) 代理人

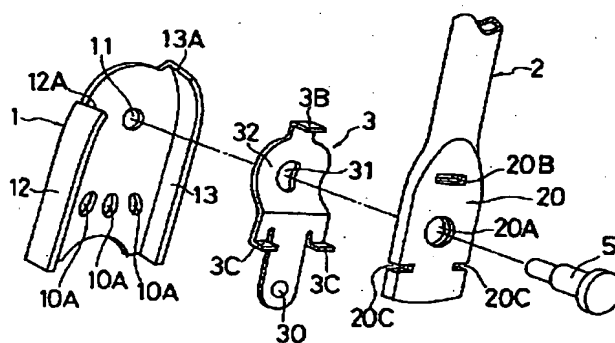
弁理士 曾我部 久

(54) 【考案の名称】 ヘッドレストの前後位置調整装置

(57) 【要約】

【目的】 シートバックと一体で前後方向に回動自在に取付けてなるヘッドレストにおいて、前後方向に回動して前後位置を調整する際に節度感を発生させることである。

【構成】 シートバックのバックフレーム(4)に、ブラケット(1)(1)を起立状に固定し、このブラケット(1)にヘッドレストフレーム(2)の扁平状端部(20)を板ばね(3)を介して連結し、板ばね(3)に係止凸部(30)、前記ブラケット(1)に複数の係合凹部(10A)(10A)(10A)を設けてなることを特徴とする。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 シートバックのバックフレームにおける上部左右に起立状に固定してなるブラケット、パイプを逆U字状に折曲して両端部を偏平状に圧潰してなるヘッドレストフレーム、このヘッドレストフレームの一端側若しくは両端側に取付けて端部に係止凸部を有する板ばねからなり、前記ブラケットにおける板ばねの係止凸部が係合する位置には、前後方向に複数の係合凹部を設け、前記一方又は双方のブラケットに、前記板ばねを介してヘッドレストフレームの両端部を前後方向に回転自在に軸着してなる、ヘッドレストの前後位置調整装置。

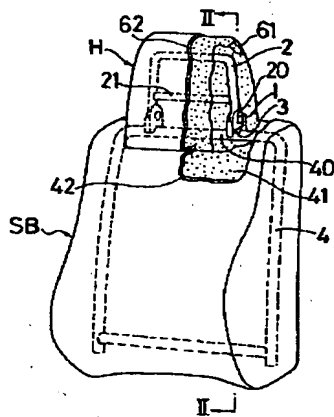
【請求項2】 前記板ばねには、係止爪をヘッドレストフレームの端部方向に向けて突設し、該係止爪をヘッドレストフレームの端部に設けたスリットに挿入してなる請求項1記載のヘッドレストの前後位置調整装置。

【請求項3】 前記係合凹部は、スリット、凹窪である請求項1記載のヘッドレストの前後位置調整装置。

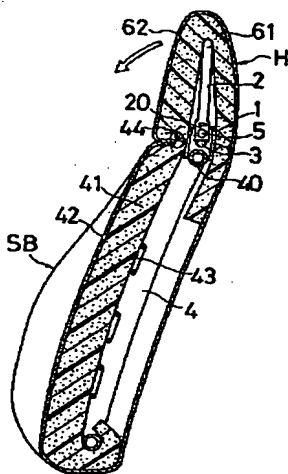
## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本案装置を備えたヘッドレスト付シートの部分

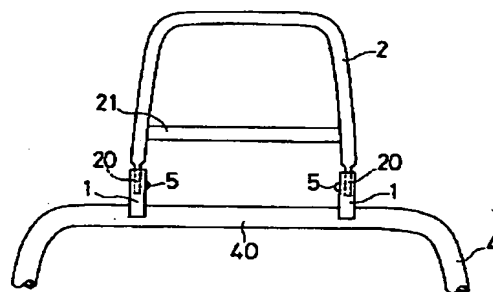
【図1】



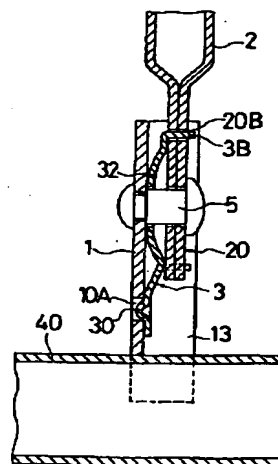
【図2】



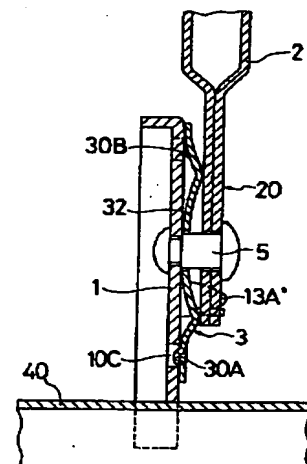
【図3】



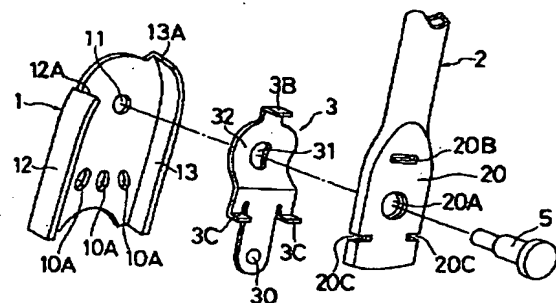
【図4】



【図8】



【図5】



切欠斜視図である。

【図2】 図1のII-II線に沿える断面図である。

【図3】 本案装置の正面図である。

【図4】 要部の部分断面図である。

【図5】 要部の分解斜視図である。

【図6】 図5に示すものにおいて、係合凹部を変更したものの分解斜視図である。

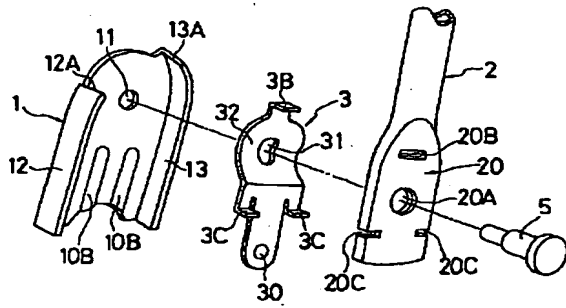
【図7】 他の実施例の分解斜視図である。

【図8】 同部分断面図である。

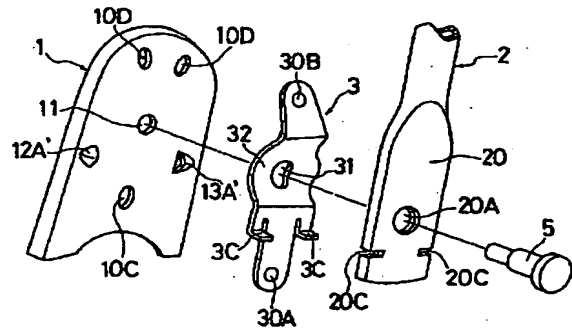
## 【符号の説明】

- |     |            |
|-----|------------|
| 1   | ブラケット      |
| 2   | ヘッドレストフレーム |
| 3   | 板ばね        |
| 4   | バックフレーム    |
| 10A | 係合凹部       |
| 10B | 係合凹部       |
| 10C | 係合凹部       |
| 10D | 係合凹部       |
| 30  | 係止凸部       |
| 30A | 係止凸部       |
| 30B | 係止凸部       |

【図 6】



【図 7】



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、自動車用シート（座席）に備えられるヘッドレストにおける前後位置調整装置、詳しくは、シートバックの上部に一体に連結しているヘッドレストの前後位置調整装置に関する。

## 【0002】

## 【従来の技術】

従来のヘッドレストには、シートバックに対して別体に成形して、シートバックにステーによって支持させるものと、シートバックの上部に一体に設けたものがある。また、シートバックにヘッドレストを別体に形成したものにおいて、シートバックに対して前後位置を調整するものには、ヘッドレスト内のヘッドレストフレームにおける下部をシートバック側に支持させるステーに対して前後方向に回動自在に軸着したものがある。（例えば、実開昭61-121158号公報など）。

## 【0003】

一方、シートバックに一体に成形したヘッドレストには、シートバックのバックフレームにプレート板のヘッドレストフレームを、板ばねによって前後方向に回動自在に軸着したものがある。これは、板ばねの摩擦力によって、ヘッドレストフレームをバックフレームに対して所定位置に保持するものである。

## 【0004】

## 【考案が解決しようとする課題】

以上のシートバックに対して別体で、シートバック側に支持させるステーに対して、前後方向に回動可能に取付けてなるヘッドレストは、ヘッドレスト内部に前後位置調整装置を設けているため、構造が複雑になり、ヘッドレストの組付性が頗る悪い不具合があつた。

## 【0005】

一方、ヘッドレストをシートバックに一体に設けたものは、シートバックの組付時に同時にヘッドレストを形成できるために組付性が良いが、前述の如く、板

ばねの摩擦力でヘッドレストフレームをバックフレームに連結しているため、前後方向に位置を調整する際に、節度感がない不具合があった。

#### 【0006】

そこで、本考案はシートバックに対して一体のヘッドレストにおいて、前後に回転して前後位置を調整する際、節度感が生じるようにすることを目的とする。

#### 【0007】

##### 【課題を解決するための手段】

以上の目的を達成するための本考案に係るヘッドレストの前後位置調整装置は、シートバックのバックフレームにおける上部左右に起立状に固定してなるブラケットと、パイプを逆U字状に折曲して両端部を偏平状に圧潰してなるヘッドレストフレームと、このヘッドレストフレームの一端側若しくは両端側に取付けて端部に係止凸部を有する板ばねからなり、前記ブラケットにおける板ばねの係止凸部が係合する位置には、前後方向に複数の係合凹部を設け、前記一方又は双方のブラケットに、前記板ばねを介してヘッドレストフレームの両端部を前後方向に回転自在に軸着してなることを特徴とするものである。

#### 【0008】

##### 【作用】

ヘッドレストを前後方向に押動することにより、ヘッドレストはヘッドレストフレームにおけるシートバックフレームと一体のブラケットに対する軸着部を中心に前後方向に回転し、着座者の頭部に対する前後位置が調整される。そして、ヘッドレストを前後方向に押動した際、板ばねの係止凸部が、ブラケットの係合凹部に係合するため、節度感が生じる。

#### 【0009】

##### 【実施例】

以下、本考案の実施例を図面に基づいて説明する。

図1、2は、本案に係る前後位置調整装置を備えたヘッドレスト(H)とシートバック(SB)を示し、シートバック(SB)のバックフレーム(4)における上部(40)の左右には、ブラケット(1)が上方に向けて起立状に溶接されており、このブラケット(1)に、板ばね(3)を介してヘッドレスト(H)の

ヘッドレストフレーム(2)が前後方向に回動自在に軸着されている。

#### 【0010】

以上のバックフレーム(4)及びヘッドレストフレーム(2)は、共にパイプを折曲して成形したものであり、ヘッドレストフレーム(2)は逆U字状に折曲しその両端部(20)は偏平状に圧潰され、リベット(5)によってブラケット(1)に軸着されている。

#### 【0011】

以上のシートバック(SB)を構成する発泡体製クッション体(41)とヘッドレスト(H)を構成する発泡体製クッション体(61)は、一体にモールド成形され、また、シートバック(SB)の表皮(42)とヘッドレスト(H)の表皮(62)は、バックフレーム(4)の上部(40)に設けたトリムワイヤ(44)に、前面側が一体に結着されている。

#### 【0012】

従って、ヘッドレスト(H)はヘッドレストフレーム(2)の軸着部を中心に、図2に示すように矢印方向に回動し、この回動によってヘッドレスト(H)の前後位置が前後に調整される。

#### 【0013】

図3、4は、ヘッドレストフレーム(3)のバックフレーム(1)に対する取付状態を示し、ヘッドレストフレーム(3)の下部には、横方向に支杆(21)が溶接され、バックフレーム(4)の上部(40)左右には、ブラケット(1)が起立状に溶接されている。

そして、ヘッドレストフレーム(3)の両端部(20)(20)とブラケット(1)との間には、板ばね(3)が介在されており、この板ばね(3)はヘッドレストフレーム(3)の両端部(20)と共にリベット(5)でブラケット(1)に回動自在に軸着されている。

#### 【0014】

以上の板ばね(3)に設けた係止爪(3B)が、端部(20)に設けたスリット(20B)に挿入することにより、板ばね(3)は、端部(20)側に一体に係止され、下端に設けた係止凸部(30)がブラケット(1)に設けた係合凹部



(10A)に係合することにより、ヘッドレスト(H)は前後位置を保持している。

#### 【0015】

図5は、板ばね(3)、ブラケット(1)、端部(20)を分解して示し、板ばね(31)には、リベット(5)を挿通する長孔(31)と、上部と左右との端縁より、端部(20)方向に直角状に折曲する係止爪(3B)(3C)(3C)と、下部にブラケット(1)方向に突出する係止凸部(30)とが設けてあり、図4に示すように縦方向に湾曲状に成形されている。

#### 【0016】

ブラケット(1)には、リベット(5)を挿通する挿通孔(11)と、この挿通孔(11)を回転中心とする円弧内で、前記係止凸部(30)に係合する位置に、複数の略楕円状の通孔からなる係合凹部(10A)が、複数(図示するものは三ヶ)前後方向に向けて設けてある。そして、このブラケット(1)の前後端縁には、フランジ(12)(13)を設けて、ブラケット(1)を補強し、フランジ(12)(13)の上端縁(12A)(13A)をヘッドレストフレーム(2)の回動範囲を規制するストッパとしている。

#### 【0017】

端部(20)には、前記板ばね(3)の係止爪(3B)(3C)(3C)が挿入して係止するスリット(20B)(20C)(20C)が形成されている。図中(20A)は、リベット(5)挿通用の通孔を示す。

#### 【0018】

図6に示す実施例は、前記ブラケット(1)に設ける係止凹部(10B)(10B)をブラケット(1)をプレス加工して凹窪状としたものであり、他の構造は、図5に示すものと同一である。

#### 【0019】

そして、図4に示すように、板ばね(3)はブラケット(1)に、ヘッドレストフレーム(2)の端部(20)と共にリベット(5)で取付けられるため、板ばね(3)における長孔(31)の近傍部(32)はブラケット(1)に弾接し、また、係止凸部(30)が係合凹部(10A)(10B)内に係合するため、

ヘッドレスト (H) に前後方向の一定以下の負荷を加えても、前後方向に回転することなく、所定位置を保持する。

#### 【0020】

そして、前記板ばね (3) のブラケット (1) に対する弾接力及び係止凸部 (30) の係合凹部 (10A) (10B) に対する係合力に抗して、ヘッドレスト (H) を前後方向に押動すると、ヘッドレスト (H) は軸着部であるリベット (5) を回転中心に上部が前後方向に回転して、ヘッドレストフレーム (2) と一体の板ばね (3) も同方向に回転するため、板ばね (3) の係止凸部 (30) は、係合凹部 (10A) (10B) 内から脱出する。これにより、係止凸部 (30) にブラケット (1) 方向に対する弾力がより一層付与される。従って、板ばね (3) の係止凸部 (30) は、ブラケット (1) の隣り合う別の係合凹部 (10A) (10B) 内に係合する。その際、係止凸部 (30) は、弾力が付与されているため、節度感が生じ、ヘッドレスト (H) の前後位置が調整される。

#### 【0021】

なお、前記ヘッドレスト (H) の前後位置を調整する際、板ばね (3) には長孔 (31) が設けてあるため、板ばね (3) の係止凸部 (30) が複数の係合凹部 (10A) (10B) に係合する際に、板ばね (3) が可動し易くなる。

#### 【0022】

また、前述の如く、板ばね (3) の係止爪 (3B) (3C) (3C) を、ヘッドレストフレーム (2) の回転方向に、長く成形しているため、係止爪 (3B) (3C) (3C) の強度が高く、その変形を防止し得る。そして、係止爪 (3B) (3C) (3C) を上下に設けることにより、ガタの発生が防止される。

#### 【0023】

図7、8は、本考案の他の実施例を示し、斯かる実施例は板ばね (3) の上、下部に係止凸部 (30A) (30B) を設け、ブラケット (1) に板ばね (3) の係止凸部 (30A) (30B) が係合する係合凹部 (10C) (10D) (10D) を設けたものであり、従って、図8に示すように係止凸部 (30A) が係合凹部 (10C) に係合し、この状態からヘッドレストフレーム (2) を、前方に回転した際には、一方の係合凹部 (10D) に、また、後方に回転した際には

、他方の係合凹部（10D）に板ばね（3）の係止凸部（30B）が夫々係合するようにしたものである。

#### 【0024】

そして、ブラケット（1）における前後には、ヘッドレストフレーム（2）方向に向けてストッパ（12A'）（13A'）が突設され、ヘッドレストフレーム（3）の回動範囲を一定範囲内に規制している。

図7、8において、前記実施例と同一符号は同一部材を示し、その説明を省略する。なお、係止爪（3C）（3C）は、板ばね（3）の他の端縁に追加しても良い。

#### 【0025】

従って、板ばね（3）の上、下部に係止凸部（30A）（30B）を設けることにより、ブラケット（1）側に設ける通孔からなる係合凹部（10C）（10D）（10D）の間隔が広がる。そのため、ブラケット（1）に設ける係合凹部（10C）（10D）（10D）のプレス成形性が良く、ブラケットの強度が損なわれないし、また、係合凸部（30A）（30B）に対する接触による摩耗も防止できる。

#### 【0026】

##### 【考案の効果】

本考案によれば、ヘッドレストの組付性が良いシートバックと一体のヘッドレストにおいて、ヘッドレストを前後方向に回動して、ヘッドレストの前後位置を調整する際、板ばねの係止凸部がブラケット側に設けた係合凹部の1つに係合するため、節度感が生じ、ヘッドレストの前後位置調整が確認できる。

しかも、構造が簡単であるため、故障し難く、低原価で提供できる。